

校正サンプル

サンプルを使用して校正の手順を説明いたします。

具体的な修正指示

あるプロジェクトがあります。このプロジェクトは、校正内容を口頭での説明が困難な内容を多く含んでいたとします。その内容をクライアントが直接 PDF にコメントやマーカーを追加して、校正内容を翻訳会社あるいは DTP 製作会社へ伝えるのが、現在では一般的になっております。

例えば、余計な文字列を削除したい場合には以下のように修正します。

これはサンプルテキスト~~で~~です。

また、必要な文字列を追加したい場合には以下のように修正します。

これは~~ン~~プルテキストです。

このように、重要なのは

「どこからどこまでの範囲が修正対象なのか」

「修正後のテキストはどうすればいいのか」

の 2 点を明確にするだけで構いません。

その際、Acrobat のハイライトツールを使用するのが最も見やすく、かつ効果的です。

また、ある特定の用語を一括で変更したい場合には、その都度指示を入れるのは面倒なので、ノートツールを使用して、「○○」→「■■」のように記載するだけで構いません。

効率よく、そして的確に指示することで、修正作業のスピードも上がり、貴社への納品もスムーズになります。

表組みなどに修正指示を入れる場合

表組みや図への修正指示も以下のように入れることができます。

表組みの場合にも、ハイライトツールを使用することで簡単に修正指示を入れることが可能です。以下の表に、主に使用する基本的な校正記号とその具体例を記載します。

校正記号	意味	使用例
トルツメ	不要な文字を削除し、後に続く文章を詰めてつなげること	翻訳会会社
イキ	一度修正指示を入れたが、元のままで問題ない場合には、「元の文章を生かす」という意味で使用する モトイキでもOK	ローカライズ
改行記号	文章のつながり、意味などから改行をして次の行から開始したい場合	マニュアル翻訳、カタログ翻訳
挿入	すでにある文章に対して、追加で文字列を入れたい場合に使用する	翻訳の品質とは